

『「知」の集積と活用の中場』及び 令和8年度予算概算要求について

農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究推進課
産学連携室

「知」の集積と活用によるイノベーションの創出

【令和8年度予算概算要求額 3,767 (2,850) 百万円】

＜対策のポイント＞

農林水産・食品分野におけるオープンイノベーションを促進するため、農林水産省が開設した『「知」の集積と活用の中』において、様々な分野の多様な知識・技術等の連携を図ります。

＜事業目標＞

- 研究成果の70%以上が、次のステージの研究や農林水産・食品産業の現場において普及・活用〔令和9年度まで〕
- 終了課題のうち50%以上において、事業化が有望な研究成果を創出〔令和12年度まで〕等

＜事業の内容＞

＜事業イメージ＞

1. 「知」の集積による産学連携推進事業 【308 (257) 百万円】

『「知」の集積と活用の中』における協議会の運営、研究開発プラットフォームから生み出された**研究成果の商品化・事業化、海外展開を促進するマッチングイベントの開催**、バイオエコノミーの推進に資する活動への支援等、イノベーションの創出に向けた取組を支援します。

2. オープンイノベーション研究・実用化推進事業 【2,459 (2,323) 百万円】

国の重要政策の推進や現場課題の解決に資する研究成果を創出し、社会実装を加速するため、**産学官が連携して取り組む基礎研究及び実用化研究**を支援します。

3. スタートアップへの総合的支援 【1,000 (270) 百万円】

政策的・社会的課題の解決やサービス事業体等の新たなビジネス創出のため、

- ① SBIR制度のもと、**革新的な研究開発とその事業化**を目指して取り組む**スタートアップ**等を支援します。また、**将来のアグリテック**を担う優秀な若手人材を発掘し、研究起業家としての能力向上を支援します。
- ② **現場課題の解決に直結する革新的な技術の事業化**を目指す農林水産・食品分野の**スタートアップの大規模技術実証**を支援します。

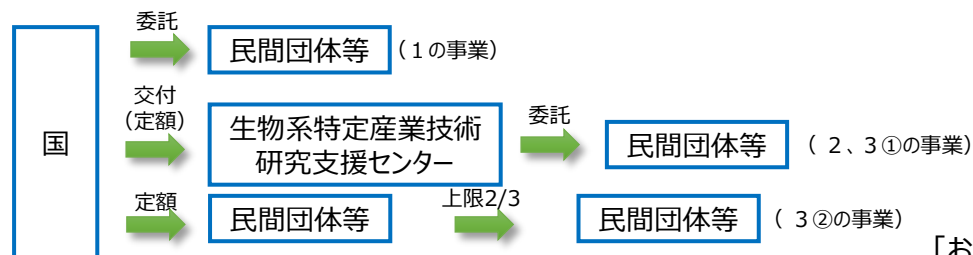
「知」の集積と活用の中

農林水産・食品分野に様々な分野のアイデア・技術等を導入した産学官連携研究を促進するオープンイノベーションの中

新たな商品化・事業化を通じて農林水産・食品分野を成長産業へ



＜事業の流れ＞



【お問い合わせ先】 農林水産技術会議事務局研究推進課 (03-3502-5530) 2

「知」の集積と活用の中

「知」の集積と活用の中は、オランダのフードバレー（産学官が連携したイノベーション創発の取組）を参考に、我が国の農林水産・食品分野におけるオープンイノベーションを通じ、技術シーズの社会実装を推進するための仕組みとして、平成28年4月から活動を開始。



③ 研究コンソーシアム

- ・研究開発や実証、商品開発に取組む共同体。
→累計**657**の研究課題が実施
(平成28年度からの累計)

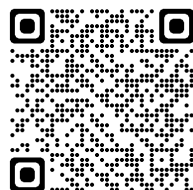
② 研究開発プラットフォーム

- ・共通のテーマ・課題に関心のある関係者が集い、自主的に研究開発プラットフォームを形成。
- ・プラットフォーム内で、研究課題の具体化、知財戦略・ビジネスモデルの策定に向けて議論。
→ **178** のプラットフォームが活動中
例) “農林水産業のスマート化”、“持続可能”、“健康に良い”、“輸出促進”、等。

① 産学官連携協議会

- ・産学連携や共創に関心のある会員が加入。
→会員数は **5,133** (法人団体・個人計)
- ・会員向けに様々な支援を実施。
(セミナーやメルマガによる情報提供、成果のPR支援、社会実装に向けた伴走的支援)

当協議会HPはこちら



<成果展示会の開催>



<セミナー開催>



<メディア発信>

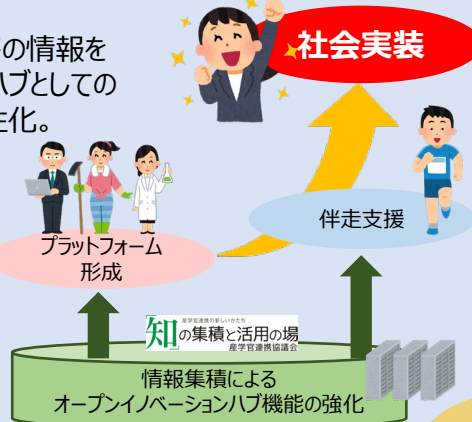
(※令和7年8月末時点)

「知」の集積と活用の中

1 「知」の集積と活用の中推進事業【110（59）百万円】

○産学官連携協議会の運営

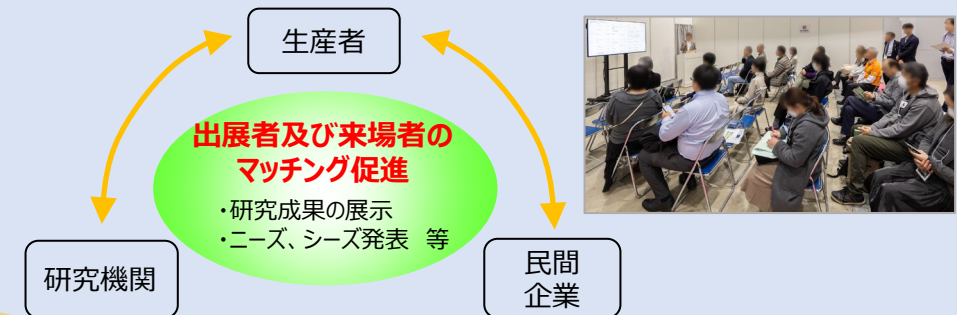
- ・ 農林水産・食品分野におけるオープンイノベーションを加速化し、研究開発プラットフォームによる社会実装事例を創出。
- ・ 協議会内に蓄積している技術シーズ等の情報をデータベース化し、オープンイノベーションハブとしての機能を強化することで会員の交流を活性化。
- ・ 地域イノベーション拠点や異業種企業等と共同して政策課題の解決に資する研究課題に取り組むプラットフォームの形成（マッチング）を支援。
- ・ 有望なプラットフォームの取組に対して、大企業との連携、VCによる資金調達等の伴走支援活動を実施。



2 技術交流推進事業【70（70）百万円】

○展示会の開催

- ・ イノベーション創出に向けて、農林水産・食品分野に関する最新の研究成果の展示会を開催し、研究機関、生産者、民間企業等の技術交流を促進。さらに、スタートアップが有する技術の情報発信により、初期需要創出を支援。



3 産学連携支援事業【128（128）百万円】

○全国コーディネーター配置

- ・ 農林水産・食品分野の研究開発や知的財産の活用方法等に関する高度な知見を有するコーディネーターを全国に約140名配置し、民間企業や研究機関等のマッチング、研究開発資金の紹介、商品化・事業化等を支援

○バイオエコノミー推進人材活動支援

- ・ 「知」の集積と活用の中を起点に、バイオエコノミーの推進に資する研究成果の社会実装に向けた活動を支援



＜対策のポイント＞

国の重要政策の推進や現場課題の解決に資する研究成果を創出し、社会実装を加速するため、産学官が連携して取り組む基礎研究及び実用化研究を支援します。
本事業は、原則として、研究コンソーシアム（共同事業体）で応募していただきます。
※イノベーション創出強化研究推進事業で採択された継続課題については、引き続き同事業の枠組みで支援します。

＜事業目標＞

研究成果の70%以上が、次のステージの研究や農林水産・食品産業の現場において普及・活用〔令和9年度まで〕

＜事業の内容＞

1. 基礎研究ステージ

農林水産・食品分野での社会実装を目指す革新的な研究シーズを創出する基礎研究を支援。

①基礎重要政策タイプ

みどりの食料システム戦略や輸出戦略など国が掲げる重要政策を解決するための研究シーズを創出する研究。

②研究シーズ創出タイプ

農林水産業・食料産業の発展につながる革新的な研究シーズを創出する研究。

③チャレンジタイプ

新たなアプローチや考えによる独創的でチャレンジングな研究。

④若手研究者応援タイプ

若手研究者に研究代表者として活躍の場を提供し、若手の斬新なアプローチで研究シーズを創出する研究。

2. 開発研究ステージ

基礎研究ステージ等の研究成果を社会実装するための実用化研究を支援。

①開発重要政策タイプ

みどりの食料システム戦略や輸出戦略など国が掲げた重要政策を解決するための研究。

②実用化タイプ

研究成果の商品化又は事業化などにより収益化を目的とする民間企業発の研究。

③現場課題解決タイプ

地域ブランド品種育成や地域栽培条件に応じた栽培体系の構築など公益性の高い現場発の研究。

④病虫害防除等対応タイプ

病虫害防除など早期に対応しなければならない課題に対する研究。

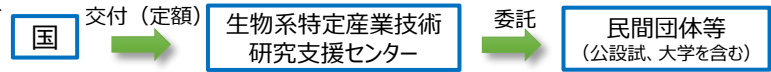
3. 重点テーマ（基礎重要政策タイプ及び開発重要政策タイプを拡充）

生産コストの大幅な低減など現場課題の解決に直結する革新的な研究や、国際競争力が高く成長性のある研究分野に関する研究について支援額を拡充し優先採択。

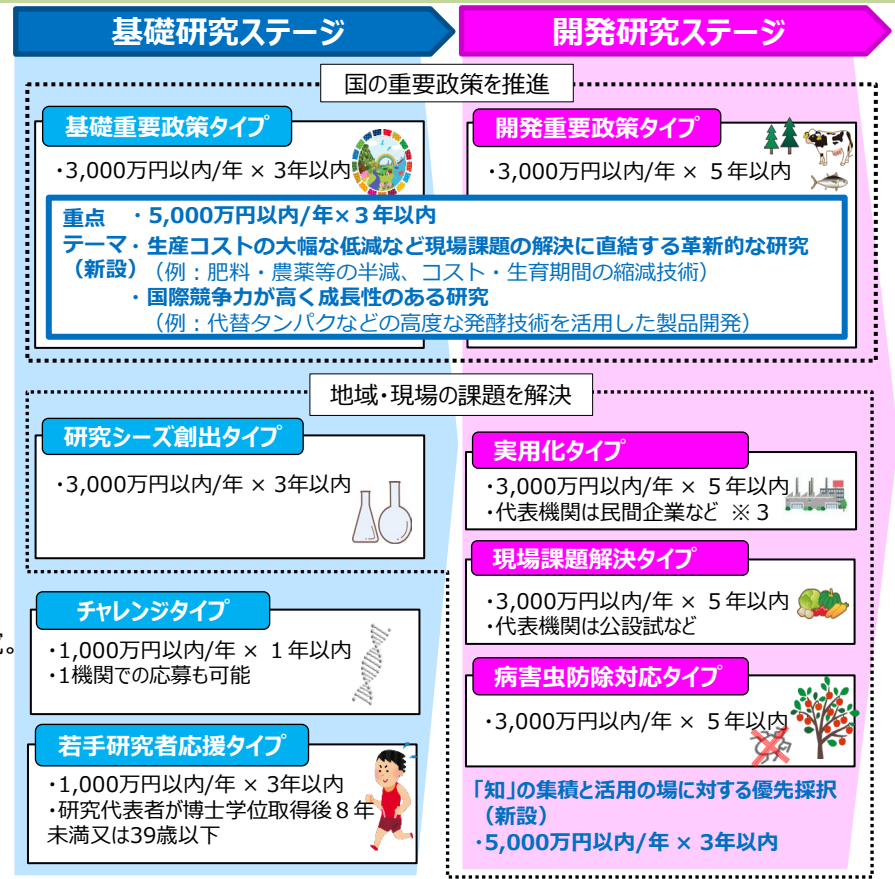
4. 「知」の集積と活用からの提案に対する優先採択

開発研究ステージにおいて、「知」の集積と活用場の研究開発プラットフォームからの優れた提案について支援額を拡充し優先採択。

＜事業の流れ＞



＜事業イメージ＞



※1 優れた研究成果を創出した研究課題は、移行審査により次のステージへ優先的に採択することで、シームレスな研究が可能。
※2 緊急に研究の実施が必要とされる事由が生じた場合、緊急対応課題研究を実施。
※3 開発研究ステージ「実用化タイプ」において、参画する民間企業にマッチングファンド方式（自己資金やVC出資額の2倍まで補助）で支援。

研究成果

01 抵抗性を打破したウイルスに対する抵抗性新品種の育成

- 2種類のトマトの病原ウイルス（ToBRFV、TSWV）の、既存品種の抵抗性を打破した変異株が海外で発生し、被害が拡大。
- ゲノム編集を使わず、トマトのウイルスを増殖させてしまう遺伝子を欠損させた**新しい抵抗性品種の作出**を目指す。
- タキイ種苗（株）が令和8年度までにToBRFV抵抗性の新品種を海外で実用化予定。

4個の遺伝子を破壊したToBRFV抵抗性トマト



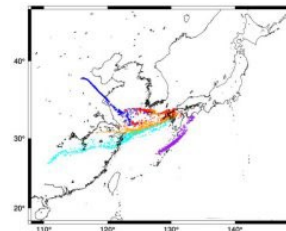
野生型
トマト

課題名：「宿主因子遺伝子への変異導入によるウイルス抵抗性トマトの創出」
令和6～8年度 代表機関：農研機構

研究成果

02 海外飛来性害虫ツマジロクサヨトウの飛来予測

- **令和元年に日本へ初侵入したツマジロクサヨトウ**は、トウモロコシを中心としたイネ科作物を加害。毎年の侵入と発生地域の拡大が懸念。
- ツマジロクサヨトウの生態を解明し、効果的な防除法を研究。
- **飛来予測システムを開発**し、日本植物防疫協会のシステムに実装。
- 越冬リスクのある地域や飼料用トウモロコシでの**防除方法等をマニュアル**にまとめて公表。



飛来計算の例

課題名：「ツマジロクサヨトウの効率的な発生予察技術と防除対策技術の開発」令和2～4年度 研究機関：農研機構、熊本県農業研究センター

研究成果

03 世界初「木の酒」でお酒の新しいムーブメントへ

- 木材と水を混ぜて微粉碎処理する技術により、木の香りを残したままセルロースの酵素糖化に成功し、**世界初の木の酒**が誕生。
- 樹種により風味が異なり、実需者からも高い評価。
- 安全性の課題もクリアし、現在、**スタートアップ企業による実証段階**
- 技術移転パッケージを作成し、**全国各地の山村地域への展開**を想定。木材消費とともに、新たな「木の酒」の産業創出が期待。



スギから試験製造されたお酒

課題名：「木の酒の社会実装に向けた製造プロセスの開発と山村地域での事業条件の検討」令和4～6年度 研究機関：森林総研

研究成果

04 ウナギの雌化技術により、おいしさと資源の有効活用の両立

- 養殖ウナギはほとんど雄となるが、**ダイズイソフラボン飼料**により、**養殖下でも雄と比べて食味が良く大きく育てても味の落ちない雌にする養殖技術**を開発。
- 主産県である愛知県や静岡県に技術を導入。愛知県では「葵うなぎ」として販売開始（令和6年8月）。
- 国産キャビアの増産に貢献するチョウザメの雌化技術についても開発中。



大型雌化ウナギとの比較

課題名：「食味に優れた大型雌ウナギ生産技術の確立と雌化技術のチョウザメへの応用」令和3～5年度 研究機関：愛知県水産試験場

スタートアップへの総合的支援

【令和8年度予算概算要求額 1,000（270）百万円】

＜対策のポイント＞
農林水産・食品分野における政策的・社会的課題の解決やサービス事業体等の新たなビジネス創出のため、SBIR制度※のもと、革新的な研究開発とその事業化を目指して取り組むスタートアップ・中小企業等を支援します。あわせて、将来のアグリテックを担う優秀な若手人材を発掘し、研究開発や事業化に関する能力向上をサポートします。

※スタートアップ等による研究開発とその成果の事業化を支援し、それによる我が国のイノベーション創出の促進を目的とした省庁横断的な制度（Small/Startup Business Innovation Research）。

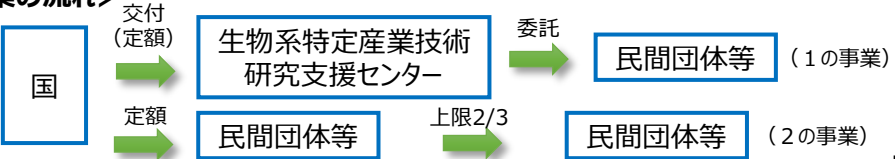
＜事業目標＞
終了課題のうち50%以上において、事業化が有望な研究成果を創出〔令和10年度まで〕等

＜事業の内容＞

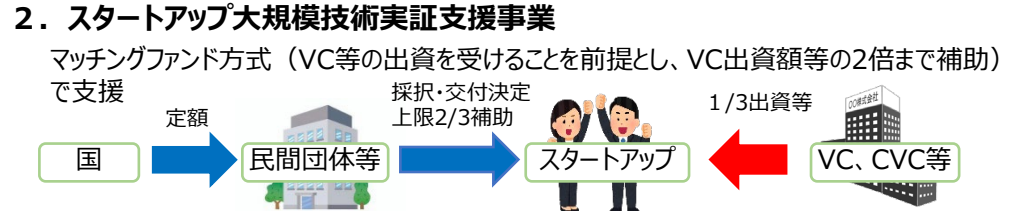
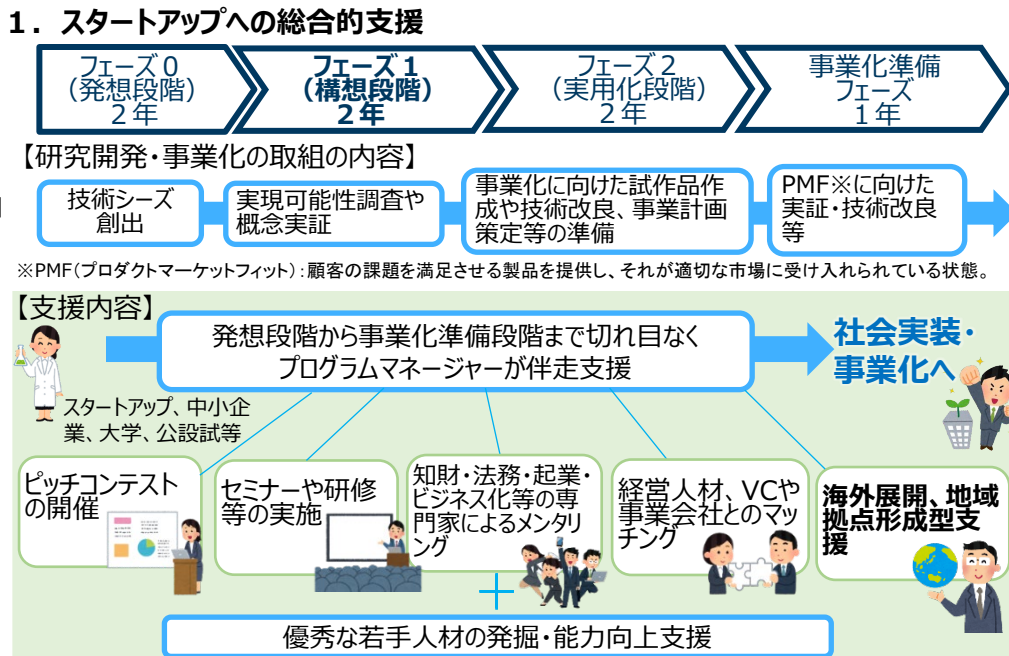
1. スタートアップへの総合的支援 【670（270）百万円】
- ① スタートアップ等が行う研究開発・事業化を目指す取組の支援
発想段階から事業化準備までの取組を切れ目なく支援します。さらに、支援するスタートアップの事業化の確度を上げ、速やかな自立を後押しするため、事業化の方向性を固める上で重要なフェーズ1の期間を延長（1年→2年）します。
【フェーズ0、1：上限10百万円/年、フェーズ2：上限20百万円/年、事業化準備フェーズ（※）：上限30百万円/年】
※ マッチングファンド方式（VC等の出資を受けることを前提とし、VC出資額等と同額まで補助）で支援。
- ② スーパーアグリクリエーター発掘支援
将来のアグリテックを担う優秀な若手人材を発掘し、研究起業家としての能力向上を支援します。
- ③ プログラムマネージャー等による伴走支援等
事業化に関する知見・経験を豊富に有するプログラムマネージャー等による、経営人材・事業会社・ベンチャーキャピタル（VC）等とのマッチング、知財・ビジネス化・資金調達等に関するメンタリング、ピッチコンテスト開催、海外展開や地域発スタートアップの連携構築などの伴走支援を行います。

2. スタートアップ大規模技術実証支援事業 【330（-）百万円】
現場課題の解決に直結する革新的な技術の事業化を目指す農林水産・食品分野のスタートアップの大規模技術実証を支援します。

＜事業の流れ＞



＜事業イメージ＞



「アグリビジネス創出フェア2025」について

■日程：11月26日（水）～28日（金） 各日10:00～17:00

■開催場所：東京ビッグサイト 西3ホール

■22回目の開催となる今年度は、「スマート・スタートアップ～先端技術で未来を拓く農林水産イノベーション」をテーマに開催。全国の大学、国立研究開発法人、公設試験場、研究機関発スタートアップ等から**118機関**が出展予定。

【開催期間中の主な催し】

1. **（一社）Agventure Lab 理事長 荻野 浩輝氏による基調講演**を実施。
2. スマート農業技術メーカーやスタートアップ等が参加して、最新の研究成果の発表。
3. 農林水産・食品分野のコーディネーターがガイド役となり、特定のテーマごとに**出展ブースを訪問**、**マッチングに向けたツアー**や**会場内での特設カウンター**において来場者からの相談を受け付けを開催。

Agribusiness Creation Fair 2025
Create Agribusiness! アグリビジネス創出フェア

スマート・スタートアップ
先端技術で未来を拓く農林水産イノベーション

11.26 水・28 金 10:00 東京ビッグサイト 事前登録制 / 入場無料
17:00 西展示棟(西3ホール) <https://agribiz.maff.go.jp/>

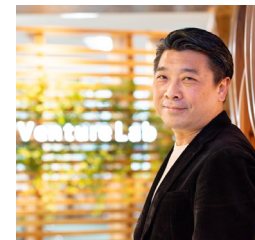
10月10日(金) 事前登録開始 / オンラインサイトオープン

農林水産省

【基調講演】11月26日 13:00～14:00

荻野 浩輝 氏

一般社団法人 Agventure Lab 理事長

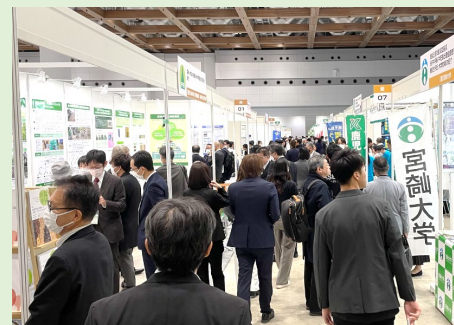


標題：「食と農のスタートアップが地球と子供たちの未来を救う」

【昨年の様子】



基調講演



会場

ご清聴ありがとうございました。